

今週（9月17日から9月20日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が週を通じて390兆円台後半で推移し、国債大量償還・利払いが行われた20日には410兆円程度まで増加した。積み期序盤ということで資金調達意欲が弱く、20日を除いて無担保コールO/N加重平均レートは▲0.06%台半ばと低位で推移した。20日は国債の大量償還で大幅余剰日となったが、週末要因から資金調達意欲が強まり、レートは上昇した。週間の取引レートは、地銀・証券業態は▲0.08～▲0.03%の幅広いレンジで、都銀・信託業態は▲0.08～▲0.075%の出会いとなった。ターム物に関しては、期末越えでオファーできる先が少ないことから、期内エンドのショートターム物で、散発的に、▲0.05～▲0.04%での出会いが見られている。

9月18日～9月19日に掛けて開催された金融政策決定会合では、現状維持が決定された。声明文には「経済・物価見通しを作成する次回の金融政策決定会合において、経済・物価動向を改めて点検していく考えである。」との文言が追加された。インターバンク市場において目立った反応はみられなかった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、20日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額3,058億円（期落ち額508億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.085～▲0.055%程度の水準で推移した。週後半はビッドサイドが厚くなり、▲0.085～▲0.070%程度で落ち着いた。

SC個別銘柄では、5年136～140、10年336～355、20年166～169、30年59～63、40年9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週よりもレートが上昇して始まったものの、日銀の金融政策決定会合を巡る思惑もあってか、週後半には堅調に推移する展開となった。3M物は、店頭買いもあって▲0.150～▲0.140%程度の出合いが見られた。6M物は▲0.290%、1Y物は▲0.280%程度の出合いが見られ、売り買いが交錯しながらレートが低下していった。

18日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.216～▲0.215%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.2200%、按分落札利回▲0.2171%とWI取引を反映して落ち着いた結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.252～▲0.240%と強含みで推移した。

20日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.160%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.1483%、按分落札利回▲0.1378%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、機械・不動産・鉄鋼業態等から大型発行が実施されたものの、四半期末を目前に控えて、事業法人の発行ニーズはやや減退傾向にあり、1兆2,900億円程度の償還に対して、9,700億円程度の発行にとどまる償還超となった。発行レートについては、期内物では荷もたれ感も出てきていることから一部でレートが上昇する動きも見られたものの、概ね0%付近の決着が中心となった。一方、期越え案件は玉確保ニーズが強く、極端に取り下がる動きは見られていないものの、若干のマイナス圏での決着が中心となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/16 (月)						
9/17 (火)	22,001.32	△ 0.155	108.19	△ 0.065	△ 0.062	3,974,500
9/18 (水)	21,960.71	△ 0.186	108.21	△ 0.065	△ 0.067	3,984,200
9/19 (木)	22,044.45	△ 0.230	108.13	△ 0.065	△ 0.080	3,973,400
9/20 (金)	22,079.09	△ 0.220	108.00	△ 0.057	△ 0.086	4,095,600

来週（9月24日から9月27日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/23 (月)	秋分の日				
9/24 (火)	大阪経済4団体共催懇談会において黒田総裁講演 7月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				7月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 9月の米CB消費者信頼感指数
9/25 (水)	三重県金融経済懇談会において政井審議委員講演 8月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 金融政策決定会合議事要旨(7月29・30日分 8:50)	40Y 4,000億円 9/26発行			8月の米新築一戸建て販売件数
9/26 (木)	全国証券大会において黒田総裁講演				4-6月期の米GDP確報値
9/27 (金)	9月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 42,700億円 9/30発行	2Y 20,000億円 10/1発行		8月の米耐久財新規受注 8月の米個人所得・消費支出

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/23 (月)	秋分の日								
9/24 (火)	300	▲ 3,300	▲ 3,000	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 500 ▲ 600 500	5,600 3,100 1,300 800	10,200	7,200	TB3M発行▲42700債還42700
9/25 (水)	0	▲ 4,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	
9/26 (木)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	40Y発行▲4000
9/27 (金)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000				0	▲ 7,000	財政融資資金の回収
週間合計	▲ 700	▲ 16,300	▲ 17,000	—	▲ 600	10,800	10,200	▲ 6,800	

9/24は日銀予想、9/25以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、20日の国債大量償還・利払いを受けて当座預金が増加しているものの、無担保コールO/Nレートが20日に若干上昇したこともあり、今週よりやや高めでの推移が予想される。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で推移すると思われるが、27日のT/Nは期越え物となることからレートは低下することが予想される。短国市場は、27日に3M物の入札が実施予定となっている。入札の水準も含めて、市場動向が注目される。CP市場は、期末・期初発行にあたる。30日には市場残高が大きく減少することが予想されるものの、期初スタート分での発行増加も相当量見込まれると思われる。また、今期最後のCP等買入オペが25日に予定されている。今月に行われた2回のオペではレート低下も見られており、動向が注目される。

主要なイベントとしては、海外では26日に4-6月期の米GDP確報値などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入